

第4章

金沢大学埋蔵文化財調査センター展覧会の開催

角間キャンパス図書館内の金沢大学資料館において、金沢大学キャンパス内出土の埋蔵文化財資料展「金沢大学内の遺跡調査」をおこなっている。平成9年の設立以来、金沢大学埋蔵文化財調査センターがおこなった発掘調査で出土した大量の遺物のうち、整理中の主な品を展示紹介している。平成10年7月の埋蔵文化財センター開所記念展以来、二回目の展覧会である。今年度は発掘調査とともに室内作業を主に行うことができたので図面や遺物の整理を進めることができた。発掘遺物の公開とともに、野外調査だけが発掘調査と誤解されがちであることから、埋蔵文化財調査センターの室内作業の様子や成果を知ってもらう目的でもある。今回の展覧は、資料館の新入生特別展覧会の一環である。

今までに金沢大学埋蔵文化財調査センターが発掘調査した遺跡は、金沢大学角間遺跡、金沢大学宝町遺跡、金沢大学東兼六遺跡で、14地点、41カ所に及ぶ。金沢大学角間遺跡は平安時代の寺院跡で、医王山を対象とする山岳信仰に関わる寺であった可能性を考えている。国内でも出土例の非常に少ない中国越州窯青磁水注が出土し、寺の特殊性が検討されている。金沢大学宝町遺跡は、加賀藩与力の町であった医学部附属病院地区と、明治から昭和まで金沢監獄があった医学部保健学科地区に分かれる。与力町は当時の絵図のとおり町並みが発掘でわかり、大量に出土した生活遺物から、与力の生活が窺われる。中には三百石を得た与力がいたと聞くとおり、中国からの輸入陶磁器や鍋島染付皿に代表される上手の肥前系陶磁器がたくさん出土している。出土する陶磁器から、当時の交易や流通の状況がわかるばかりでなく、他藩の与力町との遺物の比較で、加賀藩の特殊性がわかる。明治末に医学校が移転してきたため、上層からは病院関連の遺物のみが出土した。現在の医学部の前身となる医学校であり、金沢大学の歴史上、重要な地点である。

また、金沢監獄の跡地では、刑務所に関連する遺物が出土している。博物館明治村に門や上屋が移築されるほどに立派な監獄の建設前は、現在も「土取り場」と地元の人たちが呼ぶように、土取り場であったかもしれないと思わせる地面を大きく削った跡が発見されている。

養護学校のある金沢大学東兼六遺跡は、お城に近い上級士族屋敷跡であったと考えられ発掘の成果が期待された。しかし金沢大学が取得する前あった学校の建設時、大量の土砂を搬入していることがわかり、さらに調査地点では遺構が確認されなかったことから、試掘調査で留めることとなった。試掘時に掘りあげた、埋め土としてどこからか運ばれてきた土砂の中からも、かなりの量の陶磁器が発見されている。

今回の展覧会では、出土した遺物を公開し大学内の遺跡への興味を呼び起こすとともに、埋蔵文化財調査センターの仕事にも、理解を深めてもらいたいと願っている。

金沢大学資料館展示室にて

平成14年3月25日(月)～7月31日(水)まで

開館は午後1時～午後3時 4月8日から19日は午前10時30分～午後4時

土曜日・日曜日は休館



金沢大学宝町遺跡
医学部附属病院地区中央設備室Ⅱ地点出土



金沢大学内の遺跡調査展



縄文土器



越州窯系青磁水注



石帯



「一乗」墨書土師器



病院食器



刑務所食器



肥前系染付皿



鍋島染付皿



漳州窯系染付皿



漆塗下駄